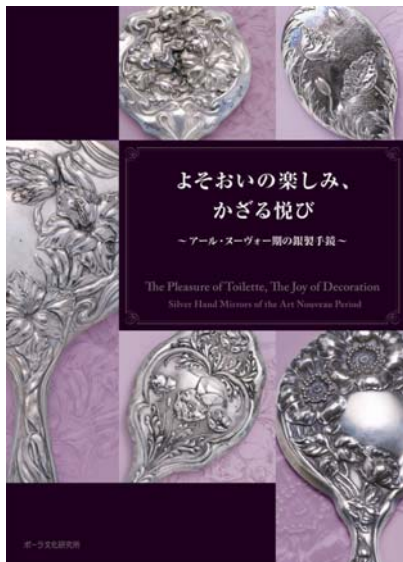


ポーラ・コレクションの本 シリーズ第9弾／ポーラ文化研究所発行

「よそおいの楽しみ、かざる喜び～アール・ヌーヴォー期の銀製手鏡～」

ポーラ・オルビスグループのポーラ文化研究所では、『よそおいの楽しみ、かざる喜び～アール・ヌーヴォー期の銀製手鏡～』を2009年4月20日に発行致します。本書では、鏡の歴史とともに、ポーラ・コレクションの19世紀末から20世紀前半にかけての銀製手鏡約100点をご紹介します。なお、本書の内容は、2009年3月11日（水）から9月6日（日）までポーラ美術館展示室4「アール・ヌーヴォーの銀製手鏡とガラス工芸」にて展示しております。



【書籍の概要】

化粧の小道具として不可欠な手鏡。19世紀末から20世紀前半にかけて、上流婦人のために作られた銀製の手鏡約100点を、鏡の歴史とともに豊富な図版でご紹介。当時最新流行のアール・ヌーヴォー様式やかつてのフランス宮廷を彷彿とさせるロココ様式など、女性の持ち物にふさわしく、華やかな装飾が施された銀製手鏡の数々をご鑑賞下さい。

【目次】

- 第1章 鏡の歴史と銀製手鏡
- 第2章 図版 アール・ヌーヴォー期の銀製手鏡
アール・ヌーヴォー
アール・ヌーヴォー様式以外の装飾

【定価】840円（税込）

【体裁】B5判 98ページ
カラー図版約110点収録

【編著】富澤洋子
（ポーラ文化研究所研究員）

【発行日】2009年4月20日

※全国の書店にてお取り扱いします。

【文化研究所の活動】

ポーラ文化研究所はポーラ・オルビスグループの文化部門の一つとして、1976年の設立以来「化粧・女性・美意識」をキーワードに東西の化粧史およびその周辺分野、各時代の風俗や美人観などを含めた化粧文化にまつわる幅広い研究活動を行っています。

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社 ポーラ・オルビスホールディングス
グループ広報室 TEL 03-3494-7123 / FAX 03-3494-7640

【本書内容に関するお問い合わせ】ポーラ文化研究所 TEL 03-5795-0941/FAX 03-3280-8891

ポーラ・オルビスグループは、「世界中の人々に笑顔と感動をお届けしたい」を理念に、化粧品会社7社をはじめとする25社で構成される企業グループです。

【アール・ヌーヴォーの手鏡】



《ケシ文銀製手鏡》ギルバート・マークス
1898年 イギリス、ロンドン
スターリングシルバー925、ガラス

ケシの花と実が対角線上に配置され、鏡の縁をぎざぎざに覆う葉を左に寄せることにより、文様は非対称となり、全体を軽快に見せる。ケシの花、蕾、葉は打ち出し、地模様は打ち込み技術が用いられている。洗練された文様や高度な金工技術から、初期アール・ヌーヴォーの好例といえる。

【アール・ヌーヴォー様式以外の手鏡】



《銀製手鏡（田園風景）》
1899-1900年頃 イギリス、バーミンガム
スターリングシルバー925、ガラス

おだやかな田園風景の中で、ルイ16世時代の服を身につけた男女が、鳥かごに入った小鳥を見つめている。19世紀末のロココ趣味の流行で18世紀に活躍したフランス画家、フランソワ・ブーシェなどの描く田園趣味の絵画が流行した。モチーフとなっている鳥かごや鳥の巣と若い男女は恋愛や結婚をあらわし、ブーシェらロココの画家たちが多く手がけている。おそらくこの手鏡の装飾もそういった絵画などから着想を得ていると思われる。



《銀製手鏡》デヴィッド・モス社
1902年 イギリス、バーミンガム
スターリングシルバー925、ガラス

横長の楕円形の鏡には細かい縞模様が施されている。縞模様によって一定のリズムをつけることによって、単調さをまぬがれている。ルイ16世様式後期を思わせるシンプルな装飾だが、アール・ヌーヴォーに続く装飾様式、アール・デコも予感される。